

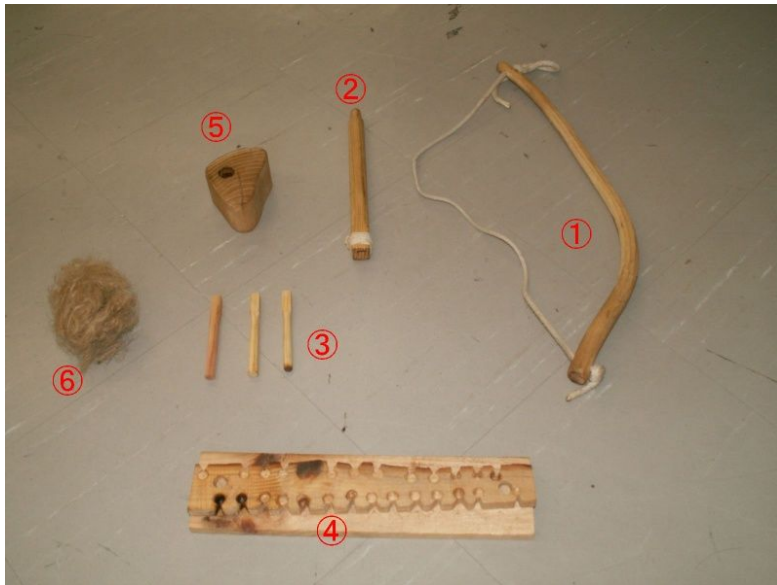
弓きり式火起こし器で、火を起こそう！

弓きり式の起源は、太古の昔、動物の肋骨(ろっこつ)の湾曲(わんきょく)部分を生かして火起こしに使ったとされています・・・。

準備と注意事項

- ◎周りに燃えやすいものがない、広い場所を選ぶこと
- ◎大人の人と一緒にやること
- ◎万が一に備え、バケツに水をくんでおくこと

1、道具の名前



- ①弓
- ②軸棒
- ③火きり棒
- ④火きり板
- ⑤軸棒押さえ
- ⑥麻紐をほぐしたもの
(通称、鳥の巣！？)

2、弓きり式火起こし器による、火の起こし方

※左利きの方は、表記の『左足、左手首』などを逆にしてください

(1) 軸棒に火きり棒を差し込む



(2) 軸棒に弓の紐を2巻きさせる



(3) 火きり棒の先を、火きり板の丸いくぼみに合わせる



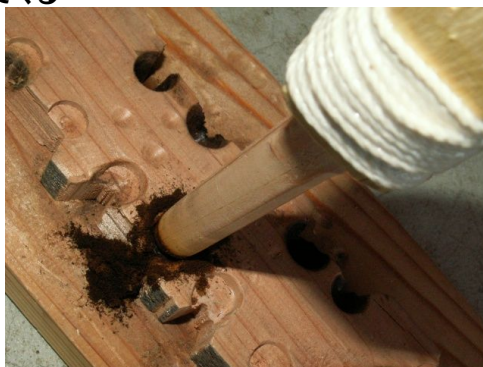
(4) 火きり板が動かぬように、左足で火きり板を踏み付け、軸棒の頭を軸棒押さえて押さえつける



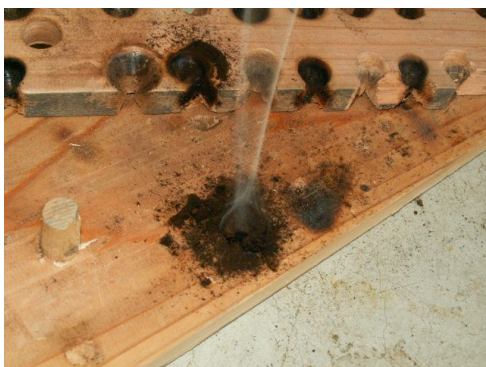
(5) 軸棒が垂直になる位置で安定させるため、左手首を左足のすねにおっつけて、右手で弓を前後に引く



(6) 初めは弓をゆっくり引き、弓を引くコツがつかめてきたら、弓を引くスピードを上げる。すると、火きり板のV字の溝に黒い粉がたまってくる



(7) 黒い粉からずーっと煙りが出続けるまで、手を止めずに弓を前後に引くと火種ができる



(8) 火種が出来たら、麻紐をほぐしたものを(鳥の巣!?)に包み込む



(9) 火種を包み込んだ鳥の巣！？の周りから息を吹きかけると、勢い良く煙が出てくる



そのまま息を吹き続けても炎になるが、煙を吸ったり、吹き疲れてしまうので、持った手をぐるぐる回し、空気を送り込む方が楽である

(10) 手をぐるぐる回すと、もくもく煙が出て、いきなり炎が上がるので、反射神経でパッと手を離す



あらかじめ炎を置く場所を決めておき、ビックリしても慌てて放り投げないように

弓きり式火起こしのツボ！？

★弓の紐は使っていくうちに伸びますので、軸棒に2回ぐるぐる巻きつけたとき、気持キツイくらいがちょうどいいです

★火きり板が貫通してしまうと絶対に火種にならないので、別のV字溝のくぼみで新規挑戦してください

★火きり棒の先がとがってしまったら、ノコギリでとがった火きり棒の先を切って、平らにしてください

★火きり棒が短くなったらペンチで引っこ抜き、新しい火きり棒へ交換してください

★火きり板と火きり棒の先がなじみ、弓を引くことに慣れてきたら、左手に持っている軸棒押さえを下へぐっと押さえつけると、摩擦力が増すため、早く火種が出来ます

~~~~~  
疲れた～、もう駄目だ～と思っても、その先に必ず火種が出来ますので、あきらめずに！  
苦勞して火種を起こし、そこから炎になる瞬間は、とても感動的ですよ♪

